

令和7年度 養父市若者ミライ会議 実施報告

令和8年1月

養父市 経営政策・国家戦略特区課

養父市の未来や地方創生に関する政策に若者世代の発想を取り入れることを目的とし、将来を担う若者が自らまちづくりに参画する組織として令和6年度に設置した若者ミライ会議について、令和7年度は下記のとおり開催した。

1 会議の目的

令和7年度はテーマを少子化対策に絞って進行した。出生数、人口の減少について主要な課題を共有し、優先すべき政策の方向性について意見交換を行うことで、若者に選ばれるまちづくりのために養父市がすべきこと、できることは何かを話し合った。

2 会議の構成

養父市内在住又は養父市出身者で概ね15歳以上30歳未満の方を対象として参加者を募集したところ、年代や職業等、多様な属性を持つ若者14名から応募があり、全員をメンバーとして選考した。

ファシリテーターは昨年度と同様、芸術文化観光専門職大学の小畑克典准教授に依頼した。

3 ワークショップ

(1) 第1回 日時：令和7年9月6日（土）13：00～15：30

場所：養父市役所 第1会議室

ア 養父市の少子化の現状について理解する

イ 養父市の少子化について意見を共有する

- ・ 少子化が進むことで良いことと困ること
- ・ 養父市で少子化が進んでいる理由
- ・ 養父市の少子化を食い止めるために何をすれば良いか

(2) 第2回 日時：令和7年9月24日（水）18：30～20：30

場所：やぶ市民交流広場 大会議室

ア 養父市の少子化対策の方向性を理解する

- ・ 養父市少子化対策プロジェクトチームの検討内容
- ・ 養父市の令和8年度重点施策

イ 若者ミライ会議としての少子化対策の具体的な施策を考える

(3) 第3回 日時：令和7年10月8日（水）18：30～20：30

場所：やぶ市民交流広場 大会議室

ア 若者ミライ会議としての提案をまとめる

(4) 第4回 日時：令和7年10月21日（火）18：30～20：30

場所：やぶ市民交流広場 大会議室

ア 施策の提案

イ 市長との意見交換

4 若者ミライ会議の提案について

(1) 実効性の高い少子化施策

ア 「Welcome to やっぶーの里」（移住者に対する現金給付）

(2) 雇用の安定と働きたい仕事の創出

ア 「やぶ ふるさと留学」（移住検討者に対するジョブ体験の提供）

イ 「養父 就活アプリ&エージェント」

ウ 「クリエイティブ産業の誘致」

(3) 若者に選ばれる住環境の整備

ア 「お値段以上！ 養父市の良さをギュギュッと詰め込んだ子育て世代のおうちづくり」（子育て世代への住宅の提供）

事業名	Welcome to やっぶーの里
目的	<ul style="list-style-type: none">● 定住人口の増加
対象者	<ul style="list-style-type: none">● 養父市に住民票があって、以下の条件を満たす方<ul style="list-style-type: none">○ 養父市で就業している・する予定であること○ 養父市に移住・里帰りしてきたこと（住民登録から半年間）
内容	<ul style="list-style-type: none">● 1人1回、150万円を現金で給付する● 10年以内に住民票を養父市外に移した場合は全額返金（7年経過している場合には半額の返金）
効果	<ul style="list-style-type: none">● 移住に際しての金銭面の不安の緩和● 定住しやすい環境づくり

事業名	やぶ ふるさと留学
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父を第2のふるさとのように考えてもらう ● 養父に来ようと思っても「どんな仕事があるのかわからない」方に対して、養父の仕事と暮らしについてわかっていただく
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父へのUターン・Iターンを考えている方
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業・林業・自然に関する仕事を、期間限定でローテーションしながら体験していただく ● ローテーションの中に一部クリエイティブ産業にかかる内容も盛り込む
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住を考えている人の「やりたいこと」が見つけやすくなる ● 養父の魅力を（再）発見するきっかけとなる ● 移住を考えている人同士の出会いを生み出せる ● 地元の人との出会いによって、移住を前向きに考えやすくなる

事業名	養父 就活アプリ&エージェント
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父で就くことのできる仕事と暮らしぶりを広くアピールし、知ってもらう
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父での就職を考えている新卒者 ● 養父へのUターン・Iターンを考えている既卒者
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住を考えている人の価値観と養父で用意できる職種のマッチングを行う ● 養父でのおすすめ職種を紹介する
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父ならではの仕事を見つけやすくなる ● 養父の魅力を（再）発見するきっかけとなる

事業名	クリエイティブ産業の誘致
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父にPC世代が「楽しいと思える仕事」を創設し、その世代を呼び寄せる
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父へのUターン・Iターンを考えている若年層（PC世代）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父市内の企業による新たな職種の創設 ● クリエイティブ産業の誘致をPRする人材に対する育成補助金 ● AIを活用した農業の支援
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 養父で仕事をしたいと考える人の増加 ● 養父市の経済成長

事業名	お値段以上！ 養父市の良さをギュギュッと詰めこんだ子育て世代のおうちづくり
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代人口の増加に向けた居住スペース（住宅）の提供
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 新築一戸建て物件（3,000万円相当）を2,000万円で販売する ● 建築にあたっては養父の木材を使うなど、都会にはない養父ならではの良さを反映する
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代の移住促進（情報発信） ● 高所得者の移住による、養父の魅力の発信力強化 ● 住宅建設に伴う雇用の創設 ● 地産地消による林業の発展

（第4回会議資料【R7】より抜粋）

5 市長との意見交換について

(1) 少子化対策

参加者からは「移住者に対する現金給付」を軸とした提案がなされた。市長からは「金額水準はともかくとして、一定の給付による移住者の誘引については考える必要がある」「従前からの子育て応援制度のさらなる充実も検討に値する」とのコメントがあった。

(2) 雇用と仕事の創出

参加者からは「ジョブ体験の提供」「就活アプリ」「クリエイティブ産業の誘致」の3点について提案がなされた。市長からは、自身の起業体験に触れた上で、既存の起業支援制度を踏まえ、今後の起業の支援・活性化に必要な更なる具体的な取組を考えているという旨のコメントがあった。参加者からはさらに、クリエイティブ産業（既存企業の新規取り組みも含む）への支援使途に情報機器を加える等、従来以上に柔軟な支援方法も提案された。

(3) 住環境

参加者からは「子育て世代への低価格での一戸建て住宅提供」を提案された。市長からは、養父市内での新築民間集合住宅建設等の動きに言及しつつ、（特に子育て世代に対する）住環境の充実の重要性を認識している旨の回答があった。

(4) その他

ミライ会議メンバーからはさらに、移住時だけでなく、他のライフステージでも支援が必要（こどもの進学、移住後一定期間経過時、自動車購入時等）との指摘があった。また、移住してきた参加者からは、移住後の支援の申請期間が短期間となっているために申請を見送るケースも挙げられた。

6 ファシリテーターによる所見

（芸術文化観光専門職大学 小畑克典准教授）

若者ミライ会議による提言には「養父で生活する者」としての切実な要望が反映されていた。少子化対策を主題としていたものの、行政に対して「商業施設」や「現金給付」等、「若者にとっての足元の生活環境改善」を望む声も多い。若者を誘引し続ける大都市圏においてもやはり少子化が進む中、「商業施設」や「現金給付」が「少子化対策」にいかほどの効果を持つかについては議論の余地があるが、養父市の「子育て世代」にとっての魅力をどう発信するかは引き続き大きな課題となる。

少子化対策には、「子育て世代の誘引」、「出会いの創出」、「産む環境・育てる環境の整備」等、複層的な施策が行政に要求される。それらを包括的に捉えた解が今回の若者ミライ会議で得られたわけではないが、今後の政策立案・実現に向けてどのように若者層の能動的な参与を求めていくべきかについてのヒントは得られたのではないかと思料する。